



ほめるには コツがある!?

園長 本多 郁代

3学期が始まり、幼稚園に子どもたちの元気な声が響き渡っています。こま回し、かるた取り、羽根つき、すごろくゲームなどの正月遊びを楽しんだり、雪遊びやアスレチック遊びを楽しんだりしています。遊びながら子どもたちはどんなことを話しているのかと耳を澄ませて聞いていると、「みてー。」「今からやるから、みてー。」などの「みてみてコール」が飛び交っています。友達同士で「みてー。」と言っている姿も見られますが、「みてみてコール」の先には、温かい笑顔で見守る先生の姿が多く見られます。ずっと見ている見飽きることのないほほえましい光景に、こちらの心も体もほっこりします。

その「みてみてコール」の舞台裏を覗いてみると、先生たちの日頃の努力が見えてきました。

- ① 子どもたちの小さなよい変化を見逃さず見付ける。
- ② 見付けた小さなよい変化は、必ず言語化する。
- ③ 言語化する時は、具体的にほめる。

(できるだけ、結果や能力ではなく、プロセスや向かう姿勢をほめる。)



だから、子どもたちは先を競うようにして、先生に見てほしいという思いを伝えているのですね。

ほめれば必ず子どもは育つというほど、人は単純ではありません。時には逆効果になることもあります。ほめられたことに対して、子ども自身が「やった!」「できた!」という実感が伴わなければ、自己肯定感も育まれないのです。そこを上手に見極めほめることで次の意欲に繋げることが大切です。自分が認めてほしいと思う頑張りをしっかり受け止めてほめてくれるという安心感があるからこそ、「みてみてコール」が連発するのです。人を育てるにはやっぱりコツがあるのですね。しかもほめるコツがあるのです。

ご家庭でも「みてみてコール」は聞こえてきますか。「みてー。」と子どもが大人を呼んでいる時こそ、子どもが伸びようとしている時です。子どもを取り巻く大人たちが、「ほめ上手」になり、子どもたちの無限の可能性を引き出していきたいものです。

